

2. 街づくり

(1) 荒川区の現状

○都市基盤

荒川区は、大正初期のころまで、緑一色の田畑であった。その後、近代産業の発展に伴い、大工場とそれに付随する中小企業が将来計画をもたないまま乱立し、これまでのどかだった農地が急速に市街化され、住・商・工が混在した街として形成されてきた。

一方、日暮里地区など、戦災復興区画整理などで街区が整った街並を形成している地区も存在する。

近年、産業構造の変化等に伴い工場の転廃業等が進む一方で、都心回帰の動きと相まって、高層マンション等の建設や再開発事業が活発に進められてきており、転入人口も増加してきている。

- 区内には依然として昔ながらの木造の街並みが数多く残っており、細分化した敷地や幅狭した権利形態など、土地利用の更新・改善等の停滞がみられる。
- 区内の用途別土地利用比率は、宅地 57.0%、道路 18.0%、公園等 4.3%、水面 5.2%となっている。（東京都「東京の土地利用」）
- 昨年 8 月につくばエクスプレスが開通し、日暮里・舎人線、成田新高速鉄道の開通も予定されているなど、交通環境を中心に街の利便性が飛躍的に高まる可能性がある。
- 道路率（行政面積に占める総道路面積の割合）は 15.0%であり、23 区中 13 番目となっている。（平成 17 年度特別区土木関係現況調書）
- まちづくり推進のための重要課題（第 30 回区政世論調査）
 - ・「歩道の段差解消など高齢者・障害者に配慮したまちづくり」（48.7%）
 - ・「建物の不燃化を促進し防災広場などを整備する防災まちづくり」（37.9%）
 - ・「生活にうるおいとやすらぎをもたらす公園・緑地の整備」（33.2%）

○住環境

木造住宅密集地域が多いうえ、都市基盤整備の遅れによって、災害に弱い体質の都市となっており、快適で安全な区民生活の実現に大きな影響を与えている。

住工混在の地域であるうえ、公園が量的に不足し、地域的に偏在しているなど、みどりとの調和が確保されていない状況にある。

また、狭隘な道路が多く、駅前等の放置自転車が後を絶たないなど、歩行者の安全性の面から放置自転車の解消が課題となっている。

- 木造住宅が密集し、狭隘な道路が区内の道路延長の過半を占めるなど、防災性の面で大きな問題を抱えている。
- 借家に居住する世帯の割合が比較的高く、老朽化した木造住宅が多い。また、区内には狭隘な道路、細街路が多く、道路に接していない住宅の割合が高い。
- 全建物に占める耐火及び準耐火建築物の占める割合（不燃化率）は、55%であり、23 区平均（57.9%）を下回っている。
- 荒川区の地域危険度をみると、危険度の高い地域（総合危険度「4」又は「5」の地域）が地区全体の約半数（48.1%）を占めている。（東京都「地域危険度測定調査結果」）
- 緑被率は、7.3%で 23 区中 23 番目であり、緑が少ない状況である。
- 区の面積に対する公園総面積の割合（公園率）は 2.37、一人あたりの公園面積は 1.55 m²で、ともに 23 区中 21 番目となっている。（平成 17 年度特別区土木関係現況調書）
- 駅前の放置自転車台数は、ここ数年減少傾向であったが、16 年度には再び増加している。（荒川区区政概要）
- 自転車が駅周辺に放置される原因（第 28 回区政世論調査）
 - ・「自転車置き場が不足」（62.3%）
 - ・「自転車利用のモラルが低い」（51.0%）
- 放置自転車を抑制するために最も効果的な方策（第 28 回区政世論調査）
 - ・「自転車駐輪場を増やす」（45.0%）
 - ・「放置自転車の撤去強化」（25.1%）
 - ・「自転車利用者へマナー・モラルの PR 活動の強化」（10.0%）

2. 街づくり

(2) 関連施策の推進状況

○都市基盤整備

- 地域の活性化の拠点となるとともに、商業施設等と調和した良好な住環境の整備を促進するため、駅前を中心にした再開発事業を推進している。

■駅前再開発の進捗状況

南千住駅	18年度建設工事開始予定
日暮里駅	建設工事中
町屋駅	18年度事業完了
三河島駅	再開発準備組合活動中

- 区民生活・産業活動の円滑化と快適で便利な防災性の高い街を実現するため、道路交通網の骨格となる都市計画道路の整備を推進している。

■都市計画道路(区施行)の進捗状況

補助306号線	工事中(19年度完成予定)
補助107号線	工事中(21年度完成予定)
補助321号線	用地買収中
補助331号線	用地測量中

○住環境整備

- 防災性の向上を図り、良好な住環境を整備するため、地域危険度の高い地域において、老朽住宅等の建替え促進、公共施設の整備、不接道住宅の建替え促進等の取り組みを行っている。
- 歩行者・自転車・自動車が安全に共存できるよう、建物新築の際や公共施設沿道において細街路の^{せいのう}拡幅整備に取り組んでいる。
- 花と緑に囲まれた街並みを形成するため、公園・児童遊園の整備・拡充を推進している。
- 花や緑にかこまれた区民にやさしい街並みを形成するため、区民が主体となった花の街づくり、まちなか花壇づくりなどの緑化推進や環境美化活動を支援している。
- 駅前等の放置自転車の解消に向け、地域住民の協力のもとに対策を推進中である。また、区民の自転車マナー向上を図るため、全国初の自転車運転免許証制度を創設した。

(3) 区政改革懇談会の主な意見

○真紅グループ

- 住んでみたいと思えるようなまち(都市基盤・再開発)
 - 住宅密集地域の再整備
 - 新たな居住者の呼びこみ、従来のまちの雰囲気を残した整備
 - 自転車空間のあり方、人中心の道路網整備、公共交通中心の交通体系の整備

○紫苑グループ

- 産業の再生とまちの活性化
 - 観光の視点からの交通体系整備

○茜グループ

- きれいで快適にすごせるまち
 - 生活に便利なまちになっている
 - 一貫した都市計画がなされている

○萌黄グループ

- 日本の玄関になる荒川区(まちづくりの観点からの観光客の受入れ)
- 安全なまちづくり(歩道の拡幅と電柱の地中化、生活道路の整備)

○山吹グループ

- 新たなまちづくりと江戸の下町風情が調和する、安全・安心で、快適な新しい息吹の感じられる美しいまち
 - 再開発などの活力あるまちと江戸の面影を残す下町との調和
 - 区民がつくる、災害に強く美しいまち

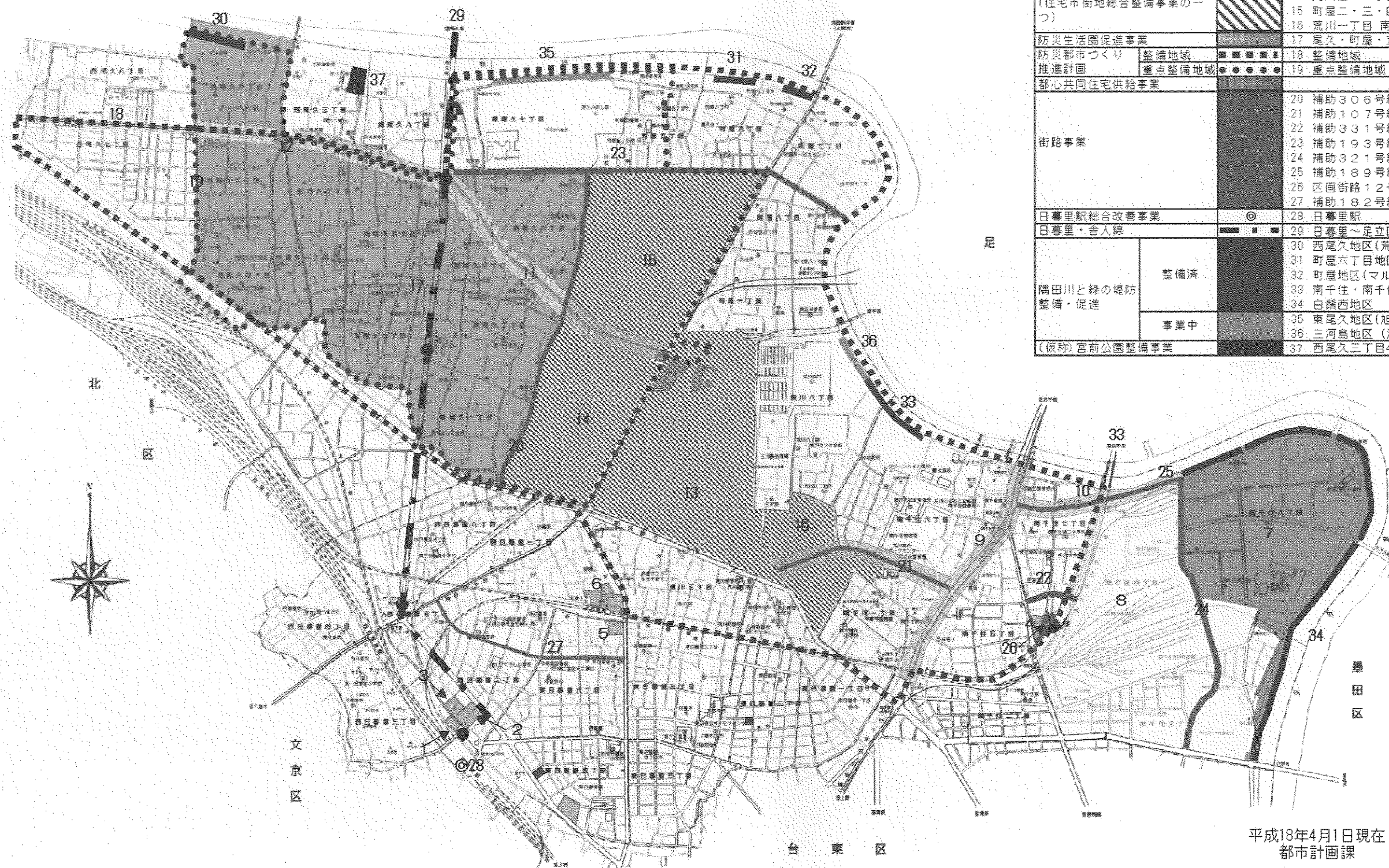
2. 街づくり

(4) 検討テーマ	
◇区のまちづくりの将来像について 【主なキーポイント】 ○快適に住める街（住む） ○活力ある産業の街（働く） ○うるおいと安らぎのある街（憩う） ○安心して暮らせる街（安全） ◇将来像の実現に向けた取組みについて 【主なキーポイント】 ○土地利用のあり方 ○住宅・住環境整備のあり方 ○道路整備のあり方 ○公園・児童遊園・広場のあり方 ○防災街づくりのあり方 ○交通体系整備のあり方 ○隅田川沿岸整備のあり方 ○景観形成のあり方 ○環境と共生した街づくりのあり方 ○住民の手による街づくりのあり方	

関 連 資 料

1. 街づくり		
・荒川区街づくりマップ	1	
・街づくり事業概要	2	
2. 市街地再開発事業		
・市街地再開発事業の概要	4	
3. 土地利用		
・23区の用途別土地利用比率	5	
・建物構造別棟数・不燃化率	6	
4. 災害危険度		
・荒川区の地域危険度	7	
5. 道路		
・23区の道路率	8	
6. みどり		
・公園等面積の推移	9	
・23区の緑被率	9	
・23区の公園等比較	10	
・公園・緑の施策の満足度	11	
7. 放置自転車		
・放置自転車撤去台数の推移	12	

1 荒川区街づくりマップ



事業名	表示色	事業推進地区
市街地再開発事業	第一種	1 ひぐらしの里西地区 2 ひぐらしの里中央地区 3 ひぐらしの里北地区 4 南千住西口駅前地区 5 三河島駅南地区(予定) 6 三河島駅北地区(予定)
	第二種	7 白鷺西地区
住宅市街地総合整備事業		8 南千住地区 9 放射12号線地区(補助107号線を含む)
都市防災不燃化促進事業		10 補助189号線地区 11 補助90号線地区 12 補助90-2号線地区
密集住宅市街地整備促進事業 (住宅市街地総合整備事業の一つ)		13 荒川二・四・七丁目地区 14 荒川五・六丁目地区 15 町屋二・三・四丁目地区 16 荒川一丁目 南千住一丁目地区
防災生活圏促進事業		17 尾久・町屋・荒川地区(18・17含む)
防災都市づくり推進計画	整備地域 重点整備地域	18 整備地域 19 重点整備地域
都心共同住宅供給事業		
街路事業		20 補助306号線(一期は整備完了) 21 補助107号線 22 補助331号線 23 補助193号線 24 補助321号線(一期はほぼ整備完了) 25 補助189号線 26 区画街路12号線 27 補助182号線(七五三通り部分は完了)
日暮里駅総合改善事業	◎	28 日暮里駅
日暮里・舎人線		29 日暮里～足立区舎人(●は区内4駅)
隅田川と緑の堤防整備・促進	整備済	30 西尾久地区(荒川遊園) 31 町屋六丁目地区(尾竹橋中跡) 32 町屋地区(マルエツ) 33 南千住・南千住北地区(アクロシティ他) 34 白鷺西地区
	事業中	35 東尾久地区(旭電化跡地) 36 三河島地区(浄化センター) (仮称)宮前公園整備事業
		37 西尾久三丁目4番

平成18年4月1日現在
都市計画課

1-2 街づくり事業概要

事業名	事業内容(目的・概要など)
市街地再開発事業 (第一種)	地権者等で設立された再開発組合による民間主導の再開発事業。再開発ビルの整備による商業・業務の集積及び都市型住宅の供給により、地域の活性化と防災性の向上や道路等の整備による居住環境の向上をめざし、日暮里、町屋、南千住の各駅前で実施されている。
市街地再開発事業 (第二種)	国、都、区、市などの公共機関が行う再開発事業。特に防災上の理由による緊急性を要する事業で、区内では南千住8丁目地区(白鬚西地区)で大規模な(約50ha)事業が実施されている。
住宅市街地総合整備事業 (拠点開発型)	良質な住宅建設や商業・業務施設などの導入と合わせ、道路・公園などの都市機能との一体的な整備を図る事業で南千住3・4丁目地区(約69ha)で実施している。
都市防災不燃化促進事業	大規模地震等に伴い発生する市街地火災から、避難する住民を守るため、防災上重要な避難路・避難地の安全性を確保するため、その周辺地域を「不燃化促進区域」に指定し、耐火建築物の建築費用の一部を助成することにより、延焼遮断帯を形成し、市街地火災の延焼拡大を防ぎ、住民の財産を保全する事業。区域指定後 10 年間で、区域内の不燃化率が概ね 70%となることを目標に事業を推進している。
密集住宅市街地整備促進 事業(住宅市街地総合整備 事業)	木造住宅が密集し公共施設などが未整備な地域において、老朽住宅等の建替えを促進するとともに、公共施設の整備やオープンスペースの確保など面的な整備を行うことにより、地域の防災性を向上させ、良質な住環境への改善を図る。
防災生活圏促進事業	災害時の市街地火災を防止するため、延焼遮断帯の整備(不燃建築物の建替促進や公開空地の整備等)と、これによって囲まれた圏域内での防災まちづくりによって、「火を出さない」「火をもらわない」ブロックを形成し、逃げないですむまちをつくる。(平成18年度で事業終了予定)

事業名	事業内容(目的・概要など)
都心共同住宅供給事業	防災性の向上や市街地環境整備に貢献する良質な中高層共同住宅の供給を促進する事業で、区内では7地区が完了している。
街路事業	街の骨格を形成する街路は、地域経済の発展には無くてはならない都市施設である。荒川区では、都と役割分担し、都市計画道路の整備を順次整備を進め、未着工路線の早期着工を目指す。また、都施行路線についても街路のネットワーク形成の観点から早期に整備するよう働きかけていく。
日暮里駅総合改善事業	現在のJR及び京成日暮里駅は、プラットホームやコンコースが狭く、また、バリアフリー化の遅れにより、利用者に不便をかけている。今後、駅周辺の再開発事業や新交通日暮里・舎人線の整備、成田新高速鉄道の整備によって、駅利用者はますますの増加が予想されている。このような駅利用者の増加に対して、混雑緩和や乗り換え負担の軽減を図るため、駅の総合改善を行う。(1階を上り線、2階をコンコース、3階を下り線)
日暮里・舎人線	新交通システム日暮里・舎人線は、23区の北東部の交通利便性の向上と沿線地域の発展を目的として計画された。 ・開業予定 平成19年度 ・ルート 日暮里駅～見沼代親水公園(約9.8km) ・駅数 13駅(荒川区内4駅(日暮里、西日暮里、赤土小学校、熊野前)、足立区内9駅)(駅名仮称) ・利用者予測 7万人/日
隅田川土と緑の堤防整備・促進	現在の隅田川防潮堤(通称:カミソリ護岸)を、より安全性や親水性の高いスーパー堤防や緩傾斜型堤防に造り変えることで、潤いのある水辺空間の創出を目指す。 なお、事業主体は河川管理者の東京都建設局河川部である。

2 市街地再開発事業

再開発ビルの整備による商業・業務の集積及び都市型住宅の供給により地域の活性化と防災性の向上や道路等の整備による居住環境の向上をめざす。

市街地再開発事業の概要

町屋駅前南地区 (地下2階 地上28階)	・地区面積: 約0.6㎡ ・敷地面積: 4,717㎡ ・延床面積: 41,933㎡ ・住宅戸数: 301戸	住宅、店舗、事務所等 〔17年度末完成〕
ひぐらしの里西地区 (地下2階、地上25階)	・地区面積: 約0.3ha ・敷地面積: 1,765㎡ ・延床面積: 22,628㎡ ・住宅戸数: 146戸	商業施設、業務施設、住宅、駐車場 〔19年度完成予定〕
ひぐらしの里中央地区 (地下2階、地上40階)	・地区面積: 約0.7ha ・敷地面積: 3,886㎡ ・延床面積: 52,600㎡ ・住宅戸数: 340戸	商業施設、業務施設、住宅、駐車場、自転車駐車場 〔20年度完成予定〕
ひぐらしの里北地区 (地下2階、地上36階)	・地区面積: 約0.4ha ・敷地面積: 3,093㎡ ・延床面積: 43,170㎡ ・住宅戸数: 286戸	商業施設、業務施設、住宅、駐車場 〔21年度完成予定〕
南千住西口駅前地区 (地下1階、地上29階)	・地区面積: 約0.8ha ・敷地面積: 3,100㎡ ・延床面積: 32,450㎡ ・住宅戸数: 215戸	住宅、店舗、公益施設、事務所、駐車場、駅前広場 〔21年度完成予定〕
三河島駅南地区	・地区面積: 約0.5ha (平成16年2月 再開発準備組合設立)	
三河島駅北地区	・地区面積: 約1.5ha (平成16年6月 再開発準備組合設立)	

3 土地利用

荒川区の土地利用比率は、23区平均とほぼ同様の水準となっている。ただし、公園等比率は23区中21位である。

23区の用途別土地利用比率
(単位: %、平成13年度)

区名	宅地	道路	公園等	水面	その他	宅地に占める 公共用地の割合
千代田	58.4	24.4	6.4	5.6	5.2	43.8
中央	41.5	30.5	4.6	17.1	6.3	13.9
港	58.3	20.3	6.5	4.2	10.7	26.6
新宿	67.6	19.1	6.1	0.7	6.5	20.0
文京	69.5	18.6	7.1	0.6	4.2	26.3
台東	55.0	26.6	7.9	4.2	6.3	20.8
墨田	54.6	23.0	6.6	7.3	8.5	12.6
江東	43.9	16.8	10.3	13.9	15.1	16.4
品川	57.0	17.7	5.8	4.0	15.5	14.6
目黒	73.7	17.4	3.2	0.6	5.1	16.9
大田	48.0	14.3	4.7	8.2	24.8	13.1
世田谷	65.7	16.4	5.2	0.9	11.8	14.6
渋谷	68.5	18.8	6.1	0.2	6.4	21.1
中野	71.7	17.1	2.9	0.9	7.4	12.0
杉並	68.7	16.7	4.7	0.8	9.1	11.3
豊島	68.0	19.9	3.7	0.1	8.3	15.5
北	56.7	17.5	7.5	5.8	12.5	16.0
荒川	57.0	18.0	4.3	5.2	15.5	15.8
板橋	59.9	19.3	7.4	2.6	10.8	14.2
練馬	60.1	17.1	5.3	0.6	16.9	11.9
足立	52.7	19.0	7.1	5.7	15.5	12.2
葛飾	51.9	17.7	6.8	8.8	14.8	15.2
江戸川	46.3	19.7	7.7	10.7	15.6	12.9
23区平均	56.6	18.1	6.1	5.3	13.9	15.7

※その他→未利用地、農用地、森林、原野等。

〈出典〉東京都都市計画局都市づくり政策部「東京の土地利用」

3-2 土地利用

全建物に占める耐火及準耐火建築物の占める割合（不燃化率）は、55.0%となっており、23区平均の57.9%より下回っている。

建物構造別棟数・不燃化率

(単位:棟・%、平成13年度)					
地域	耐火造	準耐火造	防火造	木造	計
南千住	589	1,122	3,546	352	5,609
荒川	844	1,222	4,448	632	7,146
町屋	585	1,480	3,784	293	6,142
東尾久	741	1,686	4,007	482	6,916
西尾久	801	1,175	3,233	311	5,520
東日暮里	1,424	930	2,685	358	5,397
西日暮里	1,097	780	2,275	253	4,405
計	6,081	8,395	23,978	2,681	41,135
構成比	14.8	20.4	58.3	6.5	100

不燃化率 荒川区 55.0 23区平均(平成13年度)57.9
※不燃化率→全建物に対する耐火及び準耐火建築物の占める割合を建築面積ベースで算定した値。

〈出典〉東京都都市計画局都市づくり政策部
東京の土地利用、「荒川区の土地利用」

4 災害危険度

荒川区の地区別の危険度をみると、危険度が高い「4」・「5」の地区が全体の約半数（48.1%）を占めている。

総合危険度	1	2	3	4	5
地区数	4	4	19	19	6

荒川区の地域危険度(第5回地域危険度測定調査結果)

地区名	町丁目	建物倒壊危険度		火災危険度		避難危険度		総合危険度	
		順位	ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位	ランク
南千住	1丁目	29	5	68	5	632	3	48	5
	2丁目	254	4	397	3	802	3	174	4
	3丁目	1,097	3	3,081	1	3,049	1	2,397	2
	4丁目	3,507	1	4,727	1	4,385	1	4,513	1
	5丁目	22	5	48	5	650	3	47	5
	6丁目	353	4	495	3	1,837	2	540	3
	7丁目	164	4	423	3	1,179	2	258	4
	8丁目	2,248	2	3,595	1	4,614	1	3,791	1
荒川	1丁目	184	4	282	4	1,378	2	273	4
	2丁目	100	4	164	4	3,030	1	772	3
	3丁目	209	4	110	4	1,243	2	202	4
	4丁目	169	4	84	4	1,278	2	193	4
	5丁目	168	4	494	3	576	3	124	4
	6丁目	77	5	4	5	573	3	39	5
	7丁目	118	4	331	4	2,478	2	640	3
	8丁目	1,817	2	2,129	2	4,659	1	2,998	1
町屋	1丁目	87	4	422	3	2,867	1	800	3
	2丁目	91	4	95	4	1,471	2	227	4
	3丁目	41	5	170	4	1,205	2	169	4
	4丁目	7	5	8	5	2,622	2	527	3
	5丁目	356	4	1,093	3	3,682	1	1,493	2
	6丁目	331	4	859	3	1,775	2	652	3
	7丁目	851	3	1,800	2	915	3	869	3
	8丁目	382	3	1,428	2	1,777	2	877	3
東尾久	1丁目	476	3	953	3	582	3	320	4
	2丁目	110	4	655	3	968	3	245	4
	3丁目	214	4	1,456	2	2,032	2	921	3
	4丁目	335	4	987	3	670	3	313	4
	5丁目	388	3	1,894	2	1,524	2	964	3
	6丁目	30	5	272	4	2,860	1	727	3
	7丁目	4,882	1	3,610	1	4,715	1	4,685	1
	8丁目	192	4	736	3	3,246	1	1,115	3
西尾久	1丁目	326	4	721	3	345	4	164	4
	2丁目	109	4	149	4	811	3	95	4
	3丁目	676	3	1,236	2	1,695	2	882	3
	4丁目	691	3	1,185	2	327	4	378	3
	5丁目	47	5	52	5	579	3	41	5
	6丁目	228	4	300	4	960	3	179	4
	7丁目	586	3	2,307	2	376	3	765	3
	8丁目	1,075	3	1,604	2	514	3	738	3
東日暮里	1丁目	230	4	909	3	285	4	171	4
	2丁目	285	4	616	3	174	4	96	4
	3丁目	199	4	121	4	109	4	18	5
	4丁目	189	4	659	3	277	4	107	4
	5丁目	1,236	2	1,219	2	270	4	552	3
	6丁目	202	4	479	3	82	5	55	5
西日暮里	1丁目	224	4	477	3	444	3	110	4
	2丁目	1,175	2	1,901	2	1,925	2	1,434	2
	3丁目	609	3	587	3	2,796	1	1,046	3
	4丁目	904	3	395	3	844	3	360	4
	5丁目	1,727	2	2,888	1	1,705	2	1,998	2
	6丁目	1,346	2	2,608	2	286	4	1,138	3

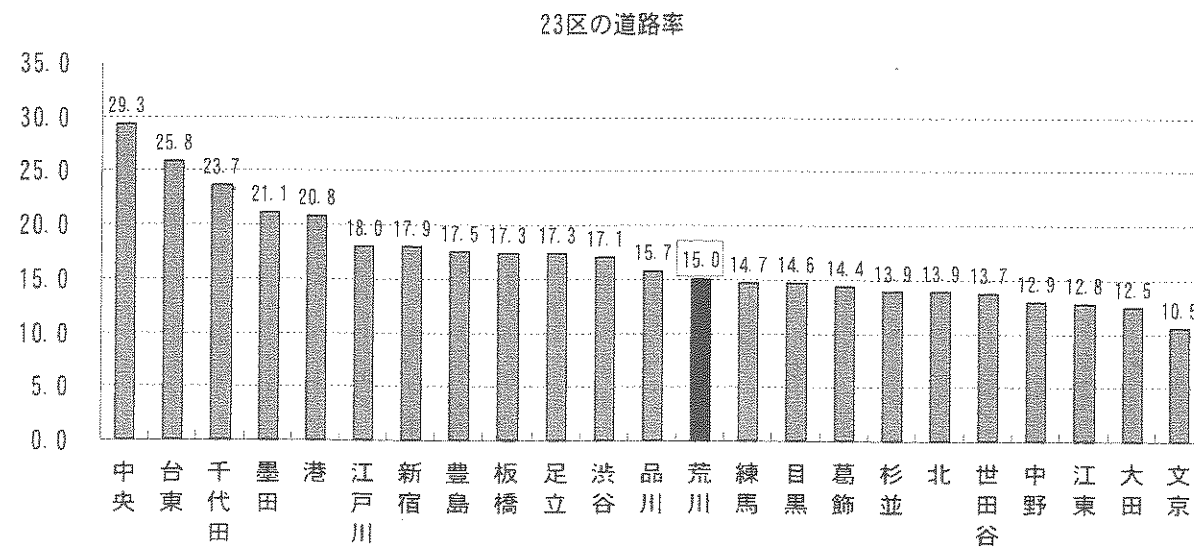
出典:東京都都市整備局「第5回地域危険度測定調査結果」(平成14年)

危険度ランク: (低い) 1 ← → 5 (高い)

建物倒壊危険度…地震動によって建物が壊れたり傾いたりする危険性の度合いを評価したもの
火災危険度…地震による出火の起こりやすさと、それによる延焼の危険性を測定して、火災の危険性の度合いを評価したもの
避難危険度…避難場所に到達するまでに要する時間と、避難する人の数を組み合わせて評価したもの
総合危険度…「建物倒壊危険度」、「火災危険度」、「避難危険度」の三つの危険度の和を5ランクにランク分けしたもの

5 道路

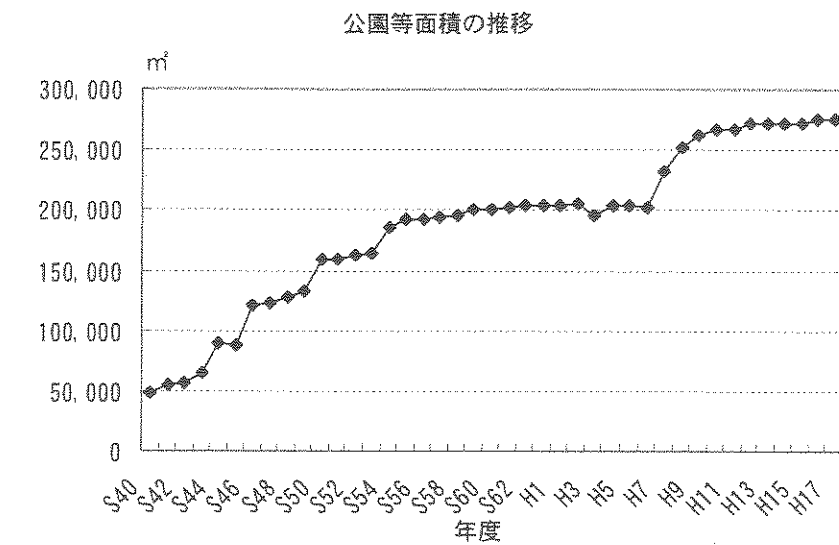
道路率（行政面積に占める総道路面積の割合）をみると、荒川区は、15.0%となっており、23区中13番目となっている。



出典：平成17年度特別区土木関係現況調査書

6 みどり

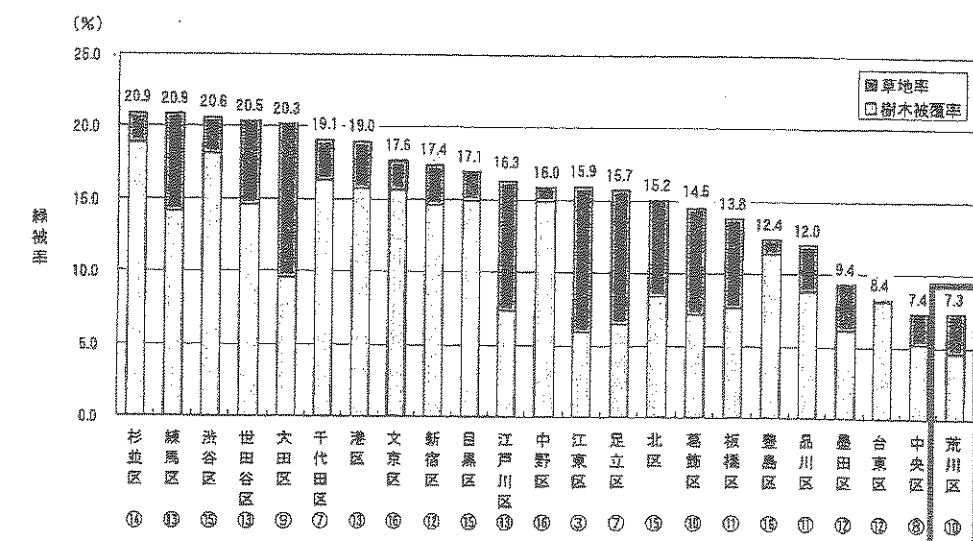
公園面積の推移をみると、平成5年に都立尾久の原公園が開園し大幅に上昇しているが、その後は、微増傾向である。



出典：荒川区土木部公園緑地課資料

荒川区の緑被率は7.3%で、23区中23番目となっている。他区に比べて、緑が少ない状況である。

23区の緑被率



注1：区によって調査年度や解析・集計方法等が異なるため、厳格な意味での比較とはならない。

注2：区名下の丸囲み数字はそれぞれの区の調査年度(平成)。

出典：第6次文京区緑地実態調査報告書(文京区土木部みどり公園課)

23区の公園・児童遊園の比較をみると、区の面積に対する公園総面積の割合（公園率）は、2.37、一人あたりの公園面積は、1.55㎡で、ともに23区中21番目となっている。

23区の公園等比較

種別 区名	公園								公園率 公園面積 区面積 (%)	児童遊園 (区)		人口割比率 (㎡/人)				
	国		都		区		計			施設数	面積 (㎡)	公園のみ	公園+児童 遊園	区立公園の み	区立公園+ 児童遊園	
	箇所数	面積 (㎡)	箇所数	面積 (㎡)	箇所数	面積 (㎡)	箇所数	面積 (㎡)								
千代田	5	1,429,703	1	161,637	22	104,410	28	1,695,750	14.57	25	7,039	39.24	39.41	2.42	2.58	千
中央	0	0	(2) 3	(34,260) 284,426	51	271,205	(2) 54	(34,260) 555,631	5.47	37	12,739	5.84	5.98	2.85	2.99	中
港	1	265,060	(3) 7	(540,152) 774,257	43	257,427	(3) 51	(540,152) 1,296,744	6.38	59	34,375	7.53	7.73	1.49	1.69	港
新宿	2	587,108	2	215,617	167	343,583	171	1,146,308	6.29	1	3,983	4.19	4.20	1.26	1.27	新
文京	0	0	2	158,657	41	177,702	43	336,359	2.97	68	22,596	1.89	2.01	1.00	1.12	文
台東	0	0	2	550,893	49	191,678	51	742,571	7.37	23	6,453	4.72	4.76	1.22	1.26	台
墨田	0	0	3	133,593	66	530,567	69	664,160	4.83	72	35,105	2.95	3.11	2.36	2.51	墨
江東	0	0	(17) 23	(1,967,137) 3,015,927	153	810,877	(17) 176	(1,967,137) 3,826,804	9.69	85	30,781	9.38	9.46	1.99	2.06	江
品川	0	0	(7) 9	(500,220) 718,966	134	462,654	(7) 143	(500,220) 1,181,620	5.20	85	88,432	3.55	3.82	1.39	1.66	品
目黒	0	0	0	114,276	71	311,938	71	426,214	2.90	52	25,197	1.73	1.83	1.27	1.37	目
大田	0	0	(12) 12	(725,425) 725,425	485	1,744,586	(12) 497	(725,425) 2,470,011	4.15	39	14,669	3.77	3.79	2.66	2.68	大
世田谷	0	0	4	897,641	337	1,400,680	341	2,298,321	3.96	135	138,265	2.86	3.03	1.74	1.91	世
渋谷	1	901,453	1	569,028	110	161,379	112	1,631,860	10.80	0	0	8.38	8.38	0.83	0.83	渋
中野	0	0	0	0	157	317,350	157	317,350	2.04	13	24,720	1.07	1.15	1.07	1.15	中
杉並	0	0	3	449,085	239	492,583	242	941,668	2.77	57	28,054	1.83	1.89	0.96	1.01	杉
豊島	0	0	0	0	60	133,812	60	133,812	1.03	91	40,578	0.57	0.74	0.57	0.74	豊
北	0	0	2	71,647	75	734,693	77	806,340	3.92	95	59,999	2.44	2.63	2.23	2.41	北
荒川	0	0	1	61,841	31	180,228	32	242,069	2.37	70	32,735	1.37	1.55	1.02	1.20	荒
板橋	0	0	3	459,951	200	1,264,478	203	1,724,429	5.36	126	76,538	3.41	3.56	2.50	2.65	板
練馬	0	0	3	1,018,265	359	757,442	362	1,775,707	3.69	216	89,785	2.65	2.78	1.13	1.26	練
足立	0	0	3	737,554	313	1,990,790	316	2,728,344	5.13	153	91,688	4.37	4.52	3.19	3.34	足
葛飾	0	0	1	766,955	132	727,066	133	1,494,021	4.29	173	100,769	3.51	3.75	1.71	1.94	葛
江戸川	0	0	(1) 5	(4,117,473) 5,259,093	161	1,819,056	(1) 166	(4,117,473) 7,078,149	14.42	238	199,522	10.76	11.06	2.77	3.07	江
計	9	3,183,324	(42) 90	(7,884,667) 17,144,734	3,456	15,186,184	(42) 3,555	(7,884,667) 35,514,242	5.76	1,913	1,164,022	4.32	4.47	1.85	1.99	計

(注) (1) 区の公園については、各区の管理するもの。国、都の公園については、平成16年度公園調書(公園緑地部刊)の数値を記入。

(2) 国、都の公園で2区以上にわたって位置している場合は、面積はそれぞれ該当する区にわけて算入。箇所数は都の公園調書に表示されている区のみ。

(3) 海上公園は、()内書で箇所数、面積を記入。

(4) 児童遊園は、各区の管理するもの。

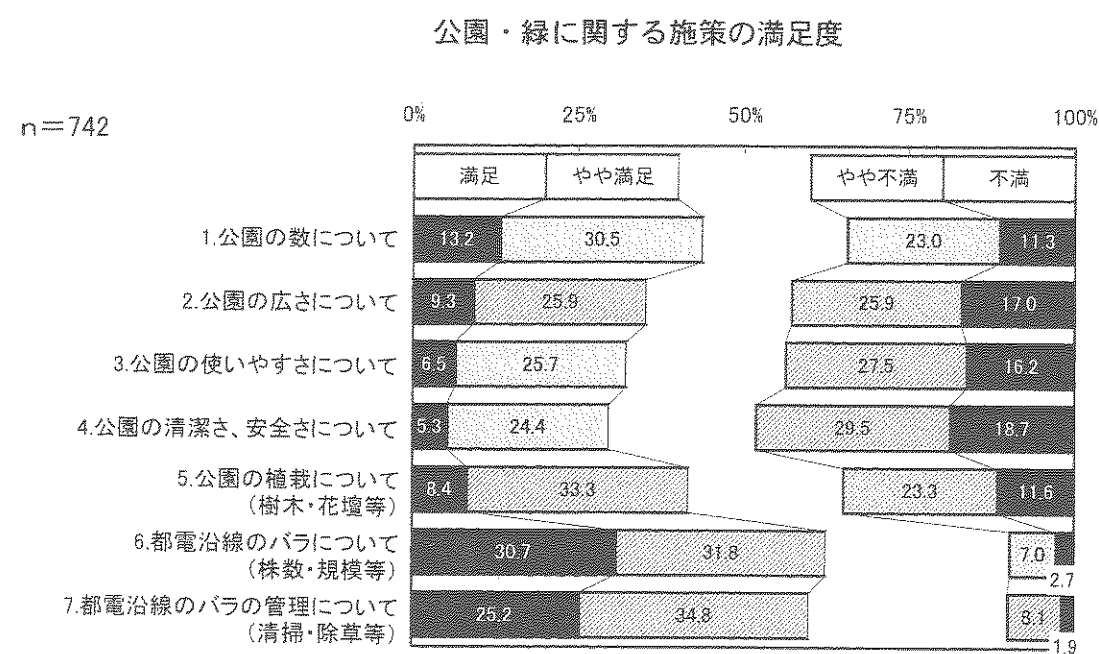
(5) 公園率の計算式 = $\frac{\text{国・都・区の公園総面積}}{\text{区の面積}} \times 100$ 小数点以下3位を四捨五入

(6) 人口割比率は、小数点以下3位を四捨五入。

(7) 人口は、平成17年4月1日現在の数値。

6-3 みどり

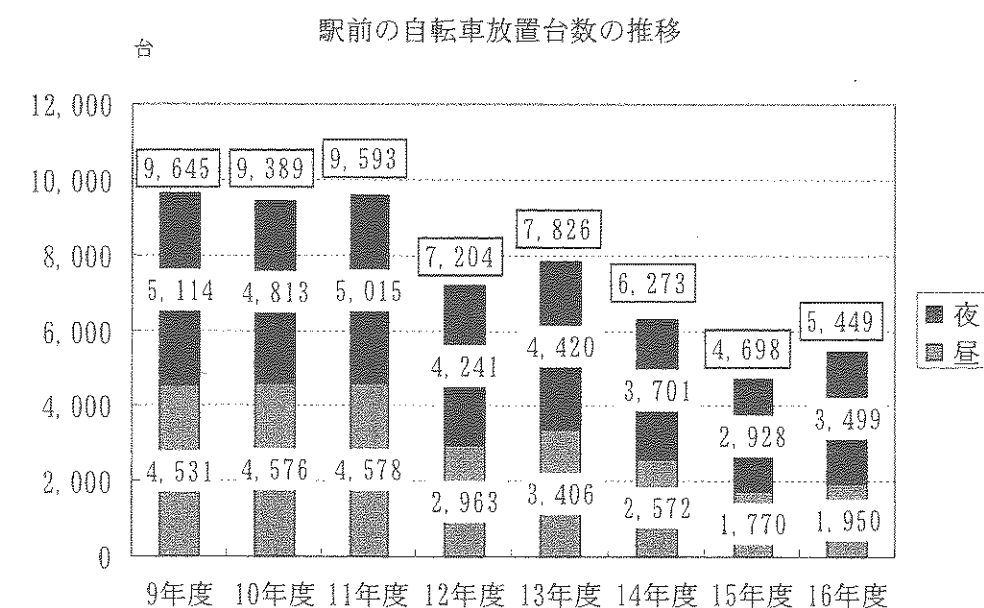
公園・緑に関する施策の満足度について聞いたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた肯定的評価が、「不満」と「やや不満」を合わせた否定的評価を上回ったのは、「都電沿線のバラについて(株数・規模等)」(62.5%)、「都電沿線のバラの管理について(清掃・除草等)」(60.0%)、「公園の数について」(43.7%)、「公園の植栽について(樹木・花壇等)」(41.7%)であった。一方、否定的評価が肯定的評価を上回ったのは、「公園の清潔さ、安全さについて」(48.2%)、「公園の使いやすさについて」(43.7%)、「公園の広さについて」(42.9%)であった。



出典：第30回区政世論調査

7 放置自転車

駅前の放置自転車台数の推移をみると、ここ数年、減少傾向であるが、16年度には、再び増加している。



出典：H12～17年度荒川区区勢概要

※放置台数は、調査時（毎年9月～10月のある調査日時）の数字

※数字には、バイク（50cc未満）等も含む

【参考】区内の自転車駐車場・置場の整備状況

名称	所在地	面積 ㎡	収容可能 登録台数	一時利用	開設年月
南千住第一	南千住2-34	294	211	—	S58.4
南千住駅東口	南千住4-1-2	2,247	1,310	200	H14.4
南千住第四	南千住2-33	45	100	—	S62.4
三河島	西日暮里1-6先	349	150	100	S62.10
センターまちや	荒川7-50-9	1,438	1,200	207	H8.4
自然公園	荒川8-32	129	70	20	S57.4
京成駅前	荒川7-40外	95	40	—	S57.4
日暮里駅前第一	西日暮里2-19	65	100	—	S54.8
日暮里駅前第二	西日暮里2-18外	190	232	86	S61.4
西日暮里	西日暮里5-38	688	792	—	S61.4
西日暮里第二	西日暮里5-22外	127	150	100	S63.4
道灌山通り第一	西日暮里3-5先	15	20	—	S61.4
道灌山通り第二	西日暮里5-13外	32	50	—	S61.4
西日暮里第三	西日暮里5-69外	1,237	1,080	—	H14.4
計		6,951	5,505	713	

注 南千住駅東口自転車等駐車場の台数登録の中には、25台の原動機付自転車分を含む。